

2021年度（令和3年度）研究推進計画

学校教育目標 「心身豊かに学び合う子どもの育成」

めざす学校像 今日の学び合いを喜び、明日の学びが待たれる学校

- ① 子どもたちが学ぶ喜びに満ち、楽しく通える学校
- ② 児童・保護者・地域に信頼される学校
- ③ 誰もが誇りを持てる学校

めざす子ども像 つよく ゆたかに 伸びゆく子

- ① 意欲的に学び、努力し続ける子
- ② 豊かな心を持つ子
- ③ 体を鍛える子

めざす教師像 子どもの心を動かす教師

- ① 思考力・判断力・表現力を育て、学習意欲を引き出す教師
- ② 互いに研鑽し、授業改善に努め続ける教師
- ③ 子どもの実態を把握し、危機管理意識を持って迅速に協力して対応する教師

研究テーマ 「伝え合い ひびき合う学びをめざして

—深い学びに迫る、山場での発問—

授業研究でめざす児童の姿

対話を通して、考えを深めたり広げたりできる児童

深い学びの定義

- ・課題を見いだして解決策を考える
- ・知識を関連づけて理解する
- ・思いや考えを基に創造する
- ・思いや考えを深化させる

深い学びの状態にある子どもの姿(つぶやき)

「なるほど」(納得) 「やっぱり」(確信) 「その方がいい」(変容)

「なぜ」(疑問) 「でも」(反応) 「じゃあ」(提案) 「たしかに」(共感)

「そういう訳か」「こう考えればいい」(気づき) 「それもいい」(受容)

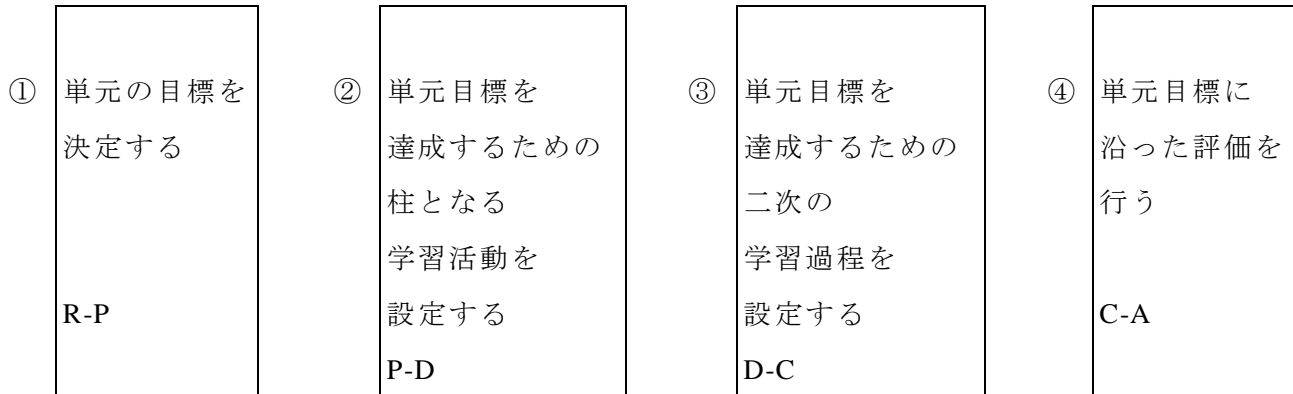
深い学びを獲得するための山場のありかた

- ・児童の思考を再び揺さぶる「山場での問い」
- ・お互いの考えを伝え合い、ひびき合わせるための「コミュニケーションの手立て」

研究内容と方法

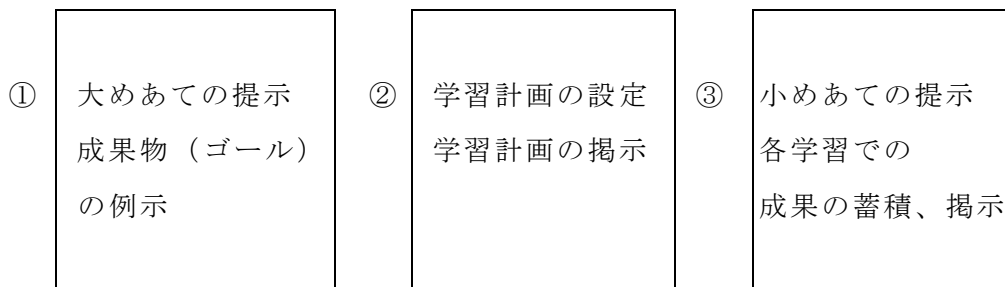
1 単元学習の方法

(1) 単元学習の設定



「本時の学習の理解」を B 評価、「三次へのつながりを意識した理解」を A 評価とする
※常に、「めあて」、「ふりかえり」、「評価」が三次につながることを意識して設定する

(2) 児童と取り組む単元学習



2 授業研究の方法

(1) 山場に向かうための二つの問い

- ①山場に入るための、問い
- ②山場での「子どもの意見をもとに、思考をめあてに迫らせる」問い

「思考をめあてに迫らせる」ための問い一例

- ・ 比べる ・ 共通点を見つける ・ 分類する ・ よりめあて達成に近いものを選ぶ
- ・ 重要な順をつける ・ 本文や資料と再度照らす ・ 教師が矛盾する視点を提示する
- ・ ミスリードされている子どもの意見を元に戻す ・ 限定、指定する
- ・ 因果関係を考える ・ 新たな視点を提示しこれまでのものと対比させる
- ・ 入れ替える ・ ずれたことを言い反論させる ・ 説明を付け加える
- ・ 抽象化、具体化させる ・ 予想、類推させる

など

(2) 山場を支えるコミュニケーションの手立て

○目的

- ・考えをたしかなものにするため
- ・違う考えにふれるため
- ・AとBからCを生み出すため

↓

一人で得ていた考えを深めるため

○方法

- ・ペア、グループトーク、バズセッション
- ・列指名
- ・ギャラリートーク、ワールドカフェ
- ・挙手やネームカードによる意思表示
- ・討論
- ・思考ツール、ホワイトボードによる可視化
- ・school taktによる共有、交流

↓

発達段階、めあてに照らしてより適切な方法を選ぶ

(3) 新学習指導要領に対応した、目標に向かう指導と評価の一体化について

別紙参照

3 学習指導案の書き方

別紙参照

4 授業力向上の取り組み

(1) 他教科研究授業

(2) ミニ講座

本年度開設予定講座

- ・音楽会に向けた音楽指導
- ・とけあい動作法
- ・プログラミング教育
- ・一年間のまとめ
- ・ニュースポーツ

5 市内発表に向けた取り組み

(1) 市内発表 2月4日 2年、3年、6年の授業公開

(2) 校内研 ①(6/10) ②(9/16) ③(10/5)

4年

5年

1年

5校時(授業公開)、放課後(事後研究会)をおこなう

事後研における討議の柱

- 山場での問いは効果的であったか
- コミュニケーションのあり方は適切であったか
- その他授業を参観して気づいたこと